

しかも驚くべきことに、ウクライナ戦争に関する日本を含む西欧諸国のマスコミ報道は、フェイク・ニュースだらけだという事実です。英語の“fake”は「虚報」の意味ですが、「人をだます目的で事実を偽造すること」です。

以下に具体的な例で真相を解き明かしてみよう。

- ① マリウポリ小児科・産科病院爆撃事件、
- ② マリウポリの劇場爆撃事件
- ③ ブチャの大虐殺事件
- ④ ロシア兵による少女レイプ事件
- ⑤ クラマトルスク駅爆撃事件
- ⑥ 1000人が買い物中だったとするクレメンチュクのショッピング・センター攻撃事件等

24-25 頁

以下に解説するように、これらのニュース報道には重大なウソが含まれていましたが、厄介なことに、それウソだと分かった後も、日本のテレビ報道を含めて修正報道はされずに、西欧メディアの「ロシアのせいにしてよう大作戦」に基づいて垂れ流さえました。

日本の多くの報道機関に「誤りを自己点検し、正常軌道に戻す能力や姿勢」が欠けているように見えます。報道の使命は、事実を伝え、人々の判断材料の基礎を客観的に提供することです。上に掲げた①～⑥は氷山の一部ですが、どのようなウソを含んでいるのか、簡単に点検してみましょう。

① マリウポリ小児科・産科病院爆撃事件

ロシアの爆撃を受けてマリウポリの小児科・産科病院から血まみれの妊産婦が赤ちゃんを抱いて脱出する写真が世界に報道され、大きな衝撃を与えました。しかし、実は映っている妊婦はウクライナの女優マリアンナ・ボドグルスカヤさん、赤ちゃんは人形、血痕は赤ペンキだったのです。

小児・産科病院爆撃事件(2022年3月9日)



産科病院はかなり前に廃止され、ウクライナ軍の軍事施設になっていた。ゼレンスキー大統領が「マリウポリの小児病院をロシアが空爆し、子どももがれきの下にいる」と言ったのは作り話だった。

左の写真の退避する妊婦はCMにも出ている女優マリアンナ・ボドグルスカヤさんで、美容ブロガーのインフルエンサーとして有名、抱いている赤ちゃんは人形、顔の血痕はペンキだった。ペンキのバケツが映像に映っていた。

女優

ペンキ

人形

人形を抱いて避難する女優さん

それは2022年3月11日のことでした。ウクライナの極右民族主義者(ネオナチ)を主体とするアゾフ連隊の本拠地であるマリウポリで「産院がロシア軍の攻撃を受け妊婦や子どもに被害が出た」というニュースが世界に発信されたのです。この頃、マリウポリの総合病院がアゾフ連隊の管理下に入っていたことや、アゾフ連隊がしばしば一般市民を「人間の盾」として用いていることは知られていましたが、日本の大手メディアはこの「産院爆撃」がウクライナ政府内のネオナチ勢力による情報戦の一環である可能性を全く検証することなく、徹頭徹尾「ロシア軍の残虐行為」であると強調しました。メディアは、私たちにとって事実を知るための重要なツールですが、メディアはまた、フェイク・ニュースを垂れ流して人々に真実でないものを信じ込ませるためにも重要な役割を果たしますので、よくよく注意が必要です。